

「中海の未利用資源である海藻の活用による地域づくり」テーマ選定について

鳥取県 水・大気環境課

島根県 環境政策課

1 テーマ選定の目的・背景など

- 両県にまたがる中海は、観光資源、魚介類の生息地や渡り鳥の飛来などの場等として両県民に様々な恩恵をもたらすかけがえのない財産である。また平成17年には、ラムサール条約湿地に登録され、条約趣旨にもある「湿地の保全」「賢明な利用（ワイズユース）」の推進も求められている。
- こうした中、中海で発生する海藻を「未利用資源」ととらえて湖内より回収・搬出し、湖外で活用することが資源循環の仕組みを考慮した水質改善・水環境保全^{※1}へ繋がる取組として位置付けられ、近年、展開^{※2}されつつあるが、課題^{※3}も見えてきたところ。

※1：適度な海藻（水草を含む）の繁茂は、魚類等の産卵や発育・生育の場となり、また水質の浄化にも寄与するなど、水環境の保全に重要な役割を担っている。しかし、一部の水域では海藻の大量繁茂が見られ、腐敗による水質悪化や底層の貧酸素化、湖底のヘドロ化など水環境に大きな影響を与えるとともに、漁業や船舶航行の障害、腐敗臭の発生など生活環境にも様々な支障を生じさせており、適切な管理が必要である。

※2：中海では、平成23年頃から鳥取・島根の両県連携事業により海藻刈りのモデル構築事業等の取組を進めてきた。また、周辺自治体や国交省等で構成する「中海会議」では肥料・食用などの新たな藻の活用方法の検討が進められている。

※3：これまでに海藻利用（主に肥料として活用）の取組は少なからず進められているが、次に掲げるような課題があり、順風満帆で継続実施が可能とは言い難い面もある。（課題：海藻回収に係る人件費確保、肥料加工の効率化・コストダウン、肥料の活用先の確保など）

2 協働事業の企画に望むこと

両県の共通の地域課題として、各種団体が持っている発想力・実行力と互いの長所・強みを活かして、「水環境の保全」だけでなく「新しい産業・雇用の創出」や「中海周辺の独自の地域振興」等の別方面からの相乗効果を高め、海藻活用の取組を持続可能かつ発展的な取組に仕上げていきたい。